



現代フランス詩とリズムの研究

人文科学系・言語文化学領域

森田 俊吾

専任講師 MORITA Syungo

博士(フランス文学)(新ソルボンヌ・パリ第3大学)

■研究キーワード フランス文学、アンリ・メシヨニック、詩学リズム、自由詩、韻律分析、オーラリティ、話し言葉

■主な所属学会 日本フランス語フランス文学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.0bfc19765ed33229520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

フランス詩は、19世紀末頃までは韻律規則に基づく定型詩が主流でしたが、20世紀から現在に至るまで、多くの詩人が自由詩型で書いています。自由詩は伝統的な制約から解放されつつも独自のリズムを持ち、それが詩の意味を形成する上で重要な要素となっています。こうしたリズムは、定型詩を主に扱う従来の韻律学では十分に説明できないため、フランス現代詩の多くは分析の対象外とされてきました。

こうした自由詩のリズムを明確に把握すべく、私は、二つのリズム分析手法を組み合わせた研究を行っています。一つは、アンリ・メシヨニックのリズム理論です。彼の理論は、詩におけるアクセントや統語法、句読法といった要素に着目し、韻律に依存しないリズム分析を可能にするものです。もう一つは、ブノワ・ド・コルニュリエの現代韻律学です。こちらは既存の韻律学を発展させたもので、各音節数の厳密な測定が可能です。これらの手法を用いた詩の分析結果を、デジタル技術で視覚化し、より直感的に理解できるようにすることを目指しています。

pour moi | voici des ans, voici
←リズム分析手法の一例(音素連鎖部分を記号と番号で表記)

「フランス現代詩読書会」→
Zoom(オンライン)による定期開催
(URL:<https://poetique.github.io>)



今後の展望・展開

1. リズム分析の可視化

文学作品を読むとき「この文章にはリズムがあるな」と感じることがあります。このリズム感覚を、他の人とも共有可能にするために、デジタル技術を用いたリズム要素の可視化に取り組んでいます。具体的には、詩のアクセントの位置や音素の反復を記号化し、直感的にリズム構造を把握できるツールの開発を進めています。これにより、詩が語る内容面だけでなく、その「語られ方」にも意識が向くようになり、詩のリズムが持つ役割の重要性がより明確になります。

2. リズムと民族主義の関係の研究

言語のリズムには、共同体の結束を強化する働きがあり、フランスにおいては「脚韻(rime)」や「ソネット(sonnet)」といった詩形式がこの役割を担ってきました。1950年代のフランスでは、「国民詩」と呼ばれる定型詩復古運動が展開され、大きな議論を呼びました。従来の研究では、政治的・歴史的な背景に焦点が当てられてきましたが、本研究では、この運動の渦中で書かれた具体的な作品群のリズムに着目することで、詩のリズムがどのように集団的アイデンティティを形成し、言語の民族主義と結びつくのかを分析しています。

3. 「フランス現代詩研究会」の運営

フランス詩の研究成果を共有するため、フランス現代詩研究会を運営しています。研究発表会と読書会を定期的に行き、詩を具体的に分析する場を提供しています。所属や立場、国籍を問わず、フランス詩に関心のある人々が集まり、各自の読解・解釈をもとに自由に意見を交換しながら、詩の表現技法や作品の魅力を検討しています。読書会での発表を通して得られた知見は、研究にも反映させ、詩の分析手法や解釈の精度を向上させることにも役立っています。